



#### ◇タイのサイエンスハイスクール

バンコク中心部から北へ50キロ、パトゥムタニ県とアユタヤ県の県境の田んぼに囲まれた場所にチュラポーン・サイエンスハイスクール・パトゥムタニ校がある。正式名称はPrincess Chulabhorn Science High School。中高一貫全寮制の理工教育に特化した学校組織はタイ各地に12校設置されている。

#### ◇大学の教室から、タイの教壇へ

私は一年ほど前まで日本で大学生をしていたが、現在は高校生へのプログラミング教育の支援を行っている。現在、チュラポーン・サイエンスハイスクールでは「Python」と呼ばれるプログラミング言語を主に扱っている。この言語はコードが見やすいことから、昨今、教育現場に広く導入されている。多くの注目が集まっている人工知能（AI）から大手のウェブサービスまで幅広い需要があるのも特徴だ。各学校には既にこのプログラミングを教えることができる教員がいる。普段はこの先生とのチームティーチングで授業についていけないような生徒たちの理解を深めることを目的に活動している。

#### ◇日本の学校とのつながり

チュラポーン各校は日本のスーパーサイエンスハイスクールなどと覚書（MOU）を結び共同のプロジェクト学習などの交流を積極的に行っている。さらに中学3年生を対象に日本の高等技術専門学校（高専）への留学支援も実施している。学校では日本語の授業もあり、日本語指導の支援もしている。特に高専へ留学する生徒に対しては放課後に補習授業を行っているほか、留学先の高専の語学担当と連携し、授業の空き時間にスカイプで日本語の授業を実施している。



タイの生徒とともにゲームのプログラミングに触れる日本の学生



広島での決勝でゲームの開発に取り組む生徒たち

#### ◇日・タイ合同ハッカソン

コンピューター教育を絡めた交流も行っている。「Unity」というツールを使ったゲームプログラミングのコンテストを、青年海外協力隊を中心にこれまでに2回開催した。

参加者はチュラポーン・サイエンスハイスクールと高専の生徒だ。今年は日本予選、タイ予選、日本決勝に分けて行い。日本予選とタイ予選の上位3校が広島での決勝に臨んだ。出場チームは3人で一つのゲームを協力して2日間で作成し最終的に英語でプレゼンを行い、審査員と参加者がその完成度を審査する形式だ。

大会の合間には日・タイそれぞれの料理や文化を紹介するなどの交流活動も行った。青年海外協力隊側で制作したアプリケーションを使っての交流やスポーツによる交流などで日・タイの生徒たちが一緒に遊んだ。最終日には広島での開催にあたり協力していただいた呉工業高等専門学校を見学した。タイの生徒達も日本の高専を見るのは初めてでとても興味を持って見学していたのが印象的だった。

### ◇これからのタイの未来を担う生徒たち

目覚ましい発展を遂げているタイ。そのタイで将来活躍していけよう優秀な生徒達が日本に触れ、学習活動の範囲を広げていることに非常に意義を感じている。情報技術が進んだ現代においても生きた交流は、広い世界を肌で身近に感じるとても良い機会だ。私たちはその架け橋として障壁を取り払う活動が今後も広がっていけばと考えている。

【筆者紹介】 茂木 春輝（もぎ・はるき） 現在、中央大学経済学部経済情報システム学科休学中。国際協力機構（JICA）青年海外協力隊に参加し、2018年6月コンピューター技術隊員としてタイに赴任。教育省チュラポーン・サイエンスハイスクール・パトゥムタニ校勤務。1997年生まれ。東京都豊島区出身。